

### 2003 A Case of Left Iliac Arteriovenous Fistula Combined with May-Thurner Syndrome.

82 歳女性、亜急性に左下肢腫脹が出現し他院を受診され、下肢静脈エコーで深部静脈血栓症を認めリバーロキサバン 15mg/day で治療が開始された。血栓は消退したが、下肢浮腫は改善せず当科紹介となった。下肢静脈エコーを再検すると、血栓は消失していたが、左総腸骨静脈起始部は高度狭窄と逆行性 flow を認め動静脈瘻が疑われた。また造影 CT で左内腸骨動脈と総腸骨静脈との間に瘻孔を認め腸骨動静脈瘻の診断となった。下肢静脈造影を施行したところ左総腸骨静脈-内腸骨動脈に複数の動静脈瘻と左総腸骨静脈閉塞を認めた。瘻孔への塞栓は困難が予想されたため、閉塞部に対する血管内治療を施行する方針とした。ワイヤー通過後に IVUS（血管内超音波）で病変部を確認したところ、左総腸骨静脈は仙骨と腸骨動脈により圧迫されており、May-Thurner 症候群が示唆された。閉塞部はバルーン拡張により良好な拡張が得られたためステント留置せず終了とした。術後浮腫は改善傾向だが、長期開存に関しては十分な観察が必要と思われる。腸骨動静脈瘻と、May-Thurner 症候群の合併は文献的にも稀であり報告する。